

第5編 教育

第1章 次代を担う人づくり

- 5-1-1 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進
- 5-1-2 高等教育機関との連携による地域の魅力や活力の向上

第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備

- 5-2-1 生涯学習の推進と学習環境の整備



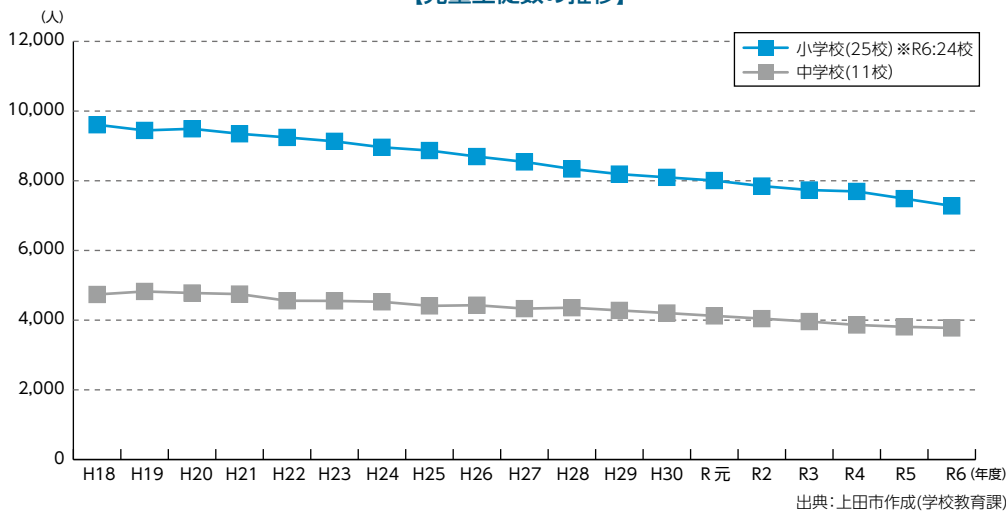
5-1-1 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進

教育を取り巻く環境変化に柔軟に対応し、学校の教育活動や家庭・地域の教育力の充実に向けた支援を推進します。

現状と課題

- 人口減少や地球温暖化、国際情勢の不安定化など、社会情勢が大きく変動する中、子どもたちが自らの力で未来を切り拓くため、「自ら学び、考え、行動する力」を身に付けることが重要です。
- 学校、家庭、地域、関係機関が連携した支援体制を充実させ、いじめや不登校などの未然防止と早期発見・対応を図り、すべての児童生徒が安心して学び過ごせる環境づくりが必要です。
- 発達障がいのある児童生徒の増加や外国籍児童生徒など、特性や置かれた環境が多様化しています。一人ひとりが尊重され、誰一人取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境整備が必要です。
- 核家族化や少子化の進展などにより子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、「地域の子どもは地域で育てる」地域ぐるみの教育が必要です。
- 健やかな身体の育成のために、児童生徒が食や健康に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、食育、健康教育を推進する必要があります。
- 少子化による児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化と、学校施設の経過年数や老朽化の状態を踏まえ、望ましい教育環境*を整えていく必要があります。

【児童生徒数の推移】



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(令和12年度)
特色ある学校教育の取組に対する市民満足度(市民アンケート)	17.5% (令和6年度)	30%
地域に開かれた学校づくりに対する市民満足度(市民アンケート)	27% (令和6年度)	50%
「授業がよくわかる」、「どちらかといえば授業がよくわかる」と答える児童生徒(小6、中3)の割合 【全国学力・学習状況調査(文部科学省)】	81.3% (令和6年度)	85%

各主体に期待される主な役割分担

家庭	・子どもの基本的な生活習慣づくりや家庭学習習慣の定着を図ります。
学校	・知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指すとともに、家庭や地域との連携を密にした学校運営を推進します。
地域	・子どもの育成に地域ぐるみで取り組みます。
事業者	・児童生徒の職業観の養成、将来の自立に向けた職場体験の受け入れを推進します。
行政	・各主体と連携・協力しながら、地域ぐるみの教育環境の整備を目指します。

施策の方向性・展開

基本施策1 確かな学力や「生きる力」を育む教育の推進

- ①一人ひとりが主体的に学び、他者と協働しながら課題解決に向かう力を育むため、デジタルの力を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進します。
- ②VUCA*（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）、グローバル化する社会において、児童生徒が時代の変化に主体的に関わることで、生涯にわたり自ら探求し続ける力を育成します。
- ③基礎的・基本的な知識および技能を確実に習得できるよう、学力検査・調査を活用し、児童生徒が「わかる・できる」授業づくりを進めます。
- ④幼保小中高大の異校種間の連携を推進し、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質能力を幼児期から一貫して育みます。

基本施策2 誰一人取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境づくり

- ①子どもたちが「自分や他人の大切さを認めること」、「人に優しい行動・態度をとること」ができるよう、人権尊重精神を育みます。
- ②「幼保・小」および「小・中」の連携、移行支援を充実させることで、子どもの成長や学びを切れ目なく支えます。
- ③校内外の相談支援体制の強化、福祉分野等との連携を推進することで、児童生徒の権利・安全が保障される学校運営に努めます。
- ④児童生徒が自分らしく学ぶことができるよう、インクルーシブな教育*を推進するとともに、一人ひとりの特性に応じた学びの環境を創出します。
- ⑤市内で増加している日本語でのコミュニケーションが難しい外国籍児童生徒が自ら未来を切り拓いていけるよう、集中日本語教室等での学びを通じて、日本の生活習慣への定着や学習環境の充実を図ります。

基本施策3 学校・家庭・地域の連携による子どもの教育に関わる環境の充実

- ①地域の特性を生かし、特色ある、魅力ある学校づくりを推進します。
- ②学校・家庭・地域の連携の強化を図り、地域全体で子どもの教育を支える環境づくりを行うとともに、子どもたちにとって安全・安心な社会環境づくりを推進します。
- ③地域の自然・文化資源に触れる体験活動を通して、地域への関心を高め、ふるさと上田に愛着を持つ取組を進めます。また、育成会や分館の活動の支援により、多様な人々と交流する中で、生きる力を育み人間性豊かな子どもを育成します。
- ④中学校部活動の地域展開を契機に、生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動を選択できる環境づくりに、地域とともに取り組みます。
- ⑤学校給食を生きた教材として活用し、地産地消を図りながら、郷土の食材や伝統ある食文化を学ぶとともに、家庭での望ましい食習慣が身に付くよう、食育の推進に取り組みます。
- ⑥児童生徒および教職員の心身の健康を保持増進するため、定期健康診断等を適切に実施するとともに、児童生徒が健康に対する関心を持ち、正しい知識が身に付くよう、健康教育を推進します。

基本施策4

時代の変化に対応し、安全で豊かな人間性を育むことができる学校施設整備

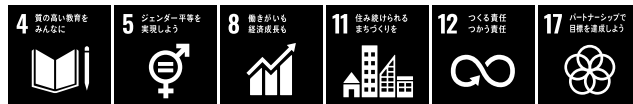
- ①建物の経過年数や老朽化の状態を総合的に勘案し、学校施設・教員住宅等の適正な維持管理等を計画的に実施するとともに、少子化に伴う学校の小規模化に対し、地域の実情や特性に配慮しながら、望ましい教育環境*を確保するための方策を検討していきます。
- ②学校給食施設の計画的な整備を進め、施設の衛生管理の徹底を図るとともに、食物アレルギー対応に取り組み、安全・安心でおいしい学校給食を安定的に提供します。また、児童生徒はもとより、市民への食育の普及・推進に資する施設としての活用を図ります。

主な事業

小中学校等施設の改修・改築事業 幼保小中連携事業 オープンドアスクール*設置・運営事業
多層指導モデル(MIM)*事業 GIGAスクール構想推進事業 中学校部活動地域展開推進事業
外国語指導助手(ALT*)派遣事業 標準学力検査事業 コミュニティスクール*事業
特色ある学校づくり事業 通学路合同点検事業 人権教育・啓発推進事業
こども安全安心見守り委員事業 青少年育成団体等支援事業 野外体験活動促進事業
地域学校協働活動事業 地域における人権・こどもまんなか社会*学習事業

関連する主な個別計画

上田市学校施設長寿命化計画、第4期上田市教育支援プラン、
第3次上田市子ども・子育て支援事業計画(上田市こども計画)、第3次上田市食育推進計画、
上田市地産地消推進基本計画、上田市人権施策基本方針(第二次改訂)、
第三次上田市生涯学習*基本構想



5-1-2 高等教育機関との連携による地域の魅力や活力の向上

公立大学法人長野大学を中心に、市内に所在する大学など高等教育機関との連携や、学生との協働による学園都市づくりを推進します。

現状と課題

- 地方創生の取組において、地方への人の流れをつくる地方大学などの活性化、地域連携による経済・生活圏の形成の視点が掲げられています。
- 現在、多くの若者が県外に進学している状況があり、令和5年度の県内から他県への大学進学率は81.2%となっています。
- 市内には、5つの大学など(長野大学、信州大学、長野県工科短期大学校、上田短期大学、筑波大学山岳科学センター)や複数の専修学校があり、多くの学生が学び、生活する「学生のまち」の特色があります。
- 大学などの専門知識や学生の若い力を地域の活性化に役立てるとともに、学生が卒業後も地域を支える人材として活躍してもらうことが重要です。
- 平成29年4月に公立大学に移行した長野大学には、一層の地域貢献とともに、時代や社会情勢に応じた改革の実行が求められています。
- 地域への愛着と誇りを育む地域づくり・人づくりに向け、幼児教育から大学教育までの課程をはじめ、ライフステージに応じた「地域の学び」の浸透を図ることが必要です。

【市内4年制大学の学生数および出身別割合】
(令和6年5月現在)

名称	学生総数 (人)	内訳(出身別)			
		県内		県外	
		(人)	割合	(人)	割合
信州大学 繊維学部	1,163	215	18.5%	948	81.5%
長野大学	1,453	678	46.7%	775	53.3%

出典：上田市作成(学園都市推進室)

【まちなかキャンパスうえだ*利用者数】
(令和4年度～令和6年度)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
連携窓口 ※1	977	460	572
学びの場 ※2	1,073	2,758	2,466
連携活動 ※3	274	267	213
合計	2,324	3,485	3,251

出典：上田市作成(学園都市推進室)

- ※1 地域と大学をつなぐ相談等の窓口
- ※2 大学研究・教育資源を市民の学びに生かす講座等の開講
- ※3 地域と大学が連携して地域課題等の解決を図る活動

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(令和12年度)
長野大学の一般入試実質倍率	2.5倍 (令和3～令和6年度平均)	2.5倍以上

各主体に期待される主な役割分担

市民	<ul style="list-style-type: none">・大学などの公開講座に積極的に参加し、学びの成果を地域づくりに生かします。・学生の行う地域活動等に積極的に参加・交流を行い、学生の柔軟な発想などを地域づくりに生かします。
学生	<ul style="list-style-type: none">・地域づくり活動などに参加し、市民との交流や連携を深めます。・市内の他大学学生同士の交流を活性化させ、地域活動のさらなる充実を図ります。
大学など	<ul style="list-style-type: none">・多くの学生が集まるよう学校の魅力を高めます。・知的資源を地域課題の解決や地域の活性化に生かします。
行政	<ul style="list-style-type: none">・大学などの魅力を高めるための支援をします。・大学や学生などの連携を促進し、地域づくりに生かします。・地域の魅力を高め、愛着を持ち、地域課題に対して解決に向けた行動ができる「シビックプライド*」の醸成を図ります。

施策の方向性・展開

基本施策1 大学など高等教育機関や学生との連携・協働による学園都市づくりの促進

- ①大学・学生・地域の住民および企業等との交流、連携を深め、地域の活性化に向けた取組を推進します。
- ②生徒・学生をはじめとした若者の声や力を活用し、住み続けたいまち、選ばれる魅力あるまちづくりに取り組みます。

基本施策2 長野大学の大学改革と教育・研究の質の向上を促進

- ①公立大学法人の設立者として長野大学中期目標の検証・改正を行いながら、公立大学法人長野大学の教育・研究の充実に向け連携して取り組みます。
- ②理系の新学部を設置し、情報科学を基盤に人工知能(AI)を適切に応用し、未来を創造できる人材の育成を目指します。

主な事業

まちなかキャンパス運営事業 信州上田学*推進事業 公立大学法人長野大学関係事業

関連する主な個別計画

公立大学法人長野大学第2期中期目標、学園都市うえだビジョン

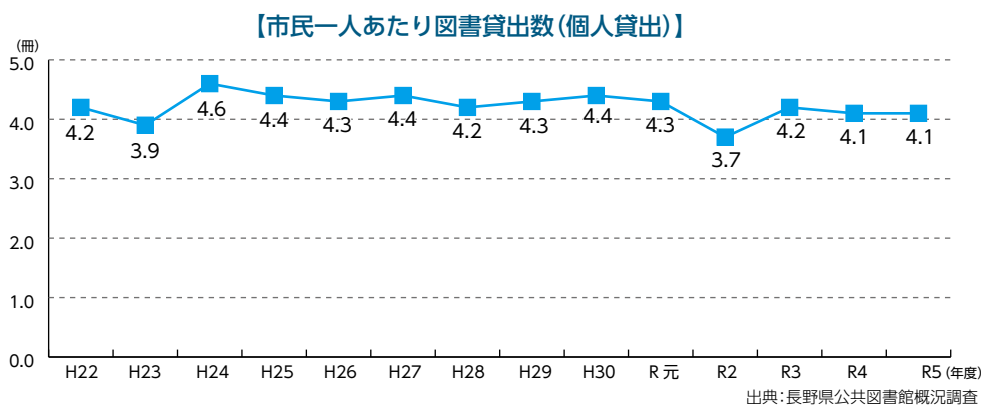
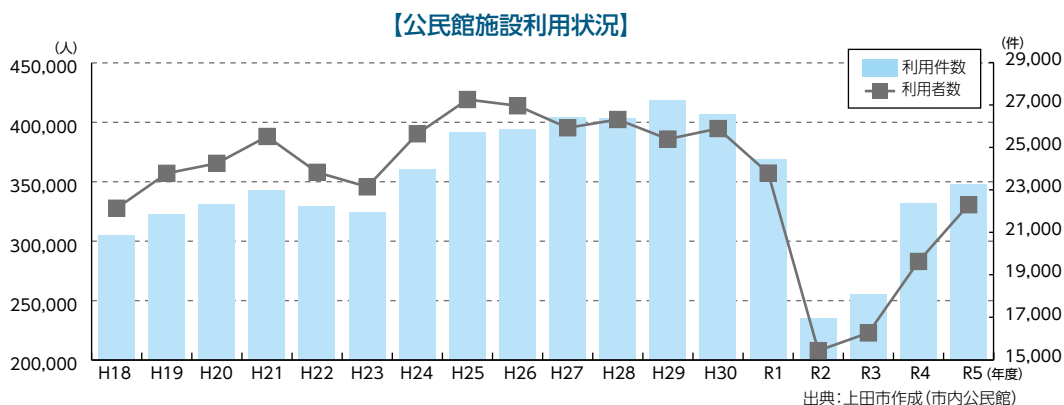


5-2-1 生涯学習*の推進と学習環境の整備

市民一人ひとりのニーズに応じた学習の機会と環境を充実し、誰もが生涯にわたって学び成長することができる地域をつくりまします。

現状と課題

- 市民ニーズの多様化・高度化に対応した生涯学習*の機会を提供していくことが求められています。
- 誰もが学びやすい環境づくりに向け、公民館や図書館、博物館などの社会教育*施設の整備・充実が必要となっています。なかでも上田図書館、博物館については狭隘化、老朽化が著しく、時代の変化に対応した施設の整備が必要です。
- 社会の変化に柔軟に対応するため、生涯にわたる学び、地域住民の主体的な学習活動を積極的に支援していく必要があります。市民一人ひとりが学んだ成果を地域のまちづくり活動等実践活動に生かしていけるような環境づくりが求められています。



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(令和12年度)
公民館施設利用件数	23,281件 (令和5年度)	25,000件
生涯学習環境が整っていると感じる市民の割合 (市民アンケート)	29.3% (令和6年度)	38.0%

各主体に期待される主な役割分担

市民	・様々な学習機会に参加するとともに、主体的に学び、活動します。 ・学んだ知識や技能を地域のまちづくりに生かします。
生涯学習団体*など	・自ら学ぶとともに、市民同士の学び合いを通してつながりを豊かにし、活動の幅を広げます。
大学など	・研究成果などを市民の学習や地域づくりに生かします。
行政	・学習環境の整備を進め、市民主体の学習活動を支援します。

施策の方向性・展開

基本施策1 誰もが生涯にわたって学び、学びの成果を生かすことができる生涯学習*活動の推進

- ①生涯学習機会の充実を図り、生涯にわたる学びを支援するとともに、学びの成果を社会活動につなげる環境づくりを推進します。
- ②誰もが学べる環境づくりに向け、社会教育*施設等の整備・充実を図るとともに、学習情報の提供体制の充実、各種関係団体等との連携を進めます。

主な事業

生涯学習振興事業 各種講座等事業 分館活動振興事業 上田図書館整備事業

関連する主な個別計画

第三次上田市生涯学習基本構想、第三次上田市図書館基本構想、上田市図書館施設整備計画